

2. 調査・解析結果

検討項目

要 点

備 考

2.3 処分場付近の地質状況

2.3 処分場付近の地質

既往の文献調査に加え、本調査の地表地質踏査結果、ならびにボーリング調査結果から明らかとなった処分場の地質構成ならびに地質分布を、図-2.3.1に示す。また、処分場の地質構成、地質構造、地質分布状況は、以下のように整理される。

2.3.1 処分場付近の地質構成・地質分布

2.3.1 処分場の地質構成・地質分布

処分場下の岩盤を構成する地質は、美濃・丹波帯に属する中生代ジュラ紀の頁岩が主体をなす。この頁岩中には一部砂質な箇所も不規則に混在する。また、処分場北側の木の芽川沿いや南西側と北東側の一部には、チャートの岩体が分布している。

上記の岩盤の中には、白亜紀後期～古第三紀のひん岩の岩脈が、小規模に貫入している。

処分場の南側～採石場の壁面までの間には、深度30～60mまで土砂層が分布する。この土砂層は場所、深度あるいは場所により性状が異なるが、全体としては採石場で発生した礫および砂を主体とし、一部に泥質分に富む箇所を層状に挟んでいる。なお、土砂中には一部に建設残土、浚渫土砂なども含まれ、局所的にはプラスチック片、ガラス片、金属片等も混在する箇所が認められる。

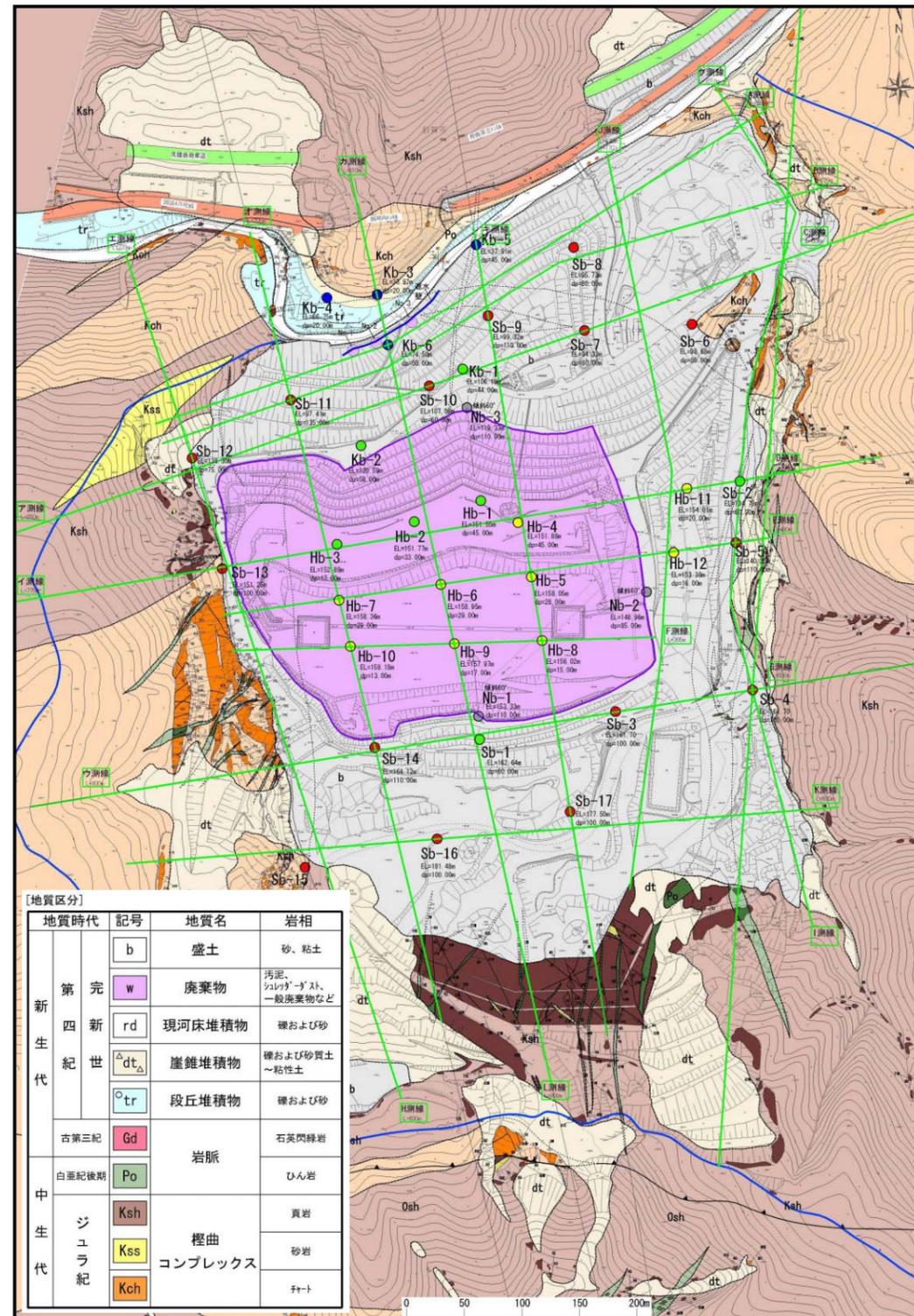


図-2.3.1 処分場付近の地質平面図 (被覆層有り)

図 - 2.3.1 処分場付近の地質平面図 (被覆層有り)

- 【参考文献】
- ・ 北陸ずい道工事誌
 - ・ 5万分の1地質図幅「敦賀」
既往調査報告書

2. 調査・解析結果

検討項目

要 点

備 考

2.3 処分場付近の地質状況
2.3.2 処分場付近の地質構造

2.3.2 処分場の地質構造

被覆層（岩盤を覆う土砂層）を剥ぎ取った状態の地質平面図を図-2.3.2に示す。この図中において、オレンジ色の等高線は、岩盤の上面形状（＝被覆層の底面形状）を表している。

図-2.3.2に示すとおり、処分場付近の地質構造は、全体としては、頁岩の岩体中にレンズ状をなすブロックとしてチャートや砂岩の岩体が分布する。それらの岩体ブロックの分布状況は複雑で、その厚さは均一ではない。

東側では、幅約1～10数m前後のひん岩が高角度で貫入している。

地層の走向・傾斜は変化に富むが、地層の分布は全体として北側に傾斜する傾向が認められる。

[地質区分]

地質時代	記号	地質名	岩相	
新 生 代	第 四 新 世	b	盛土	砂、粘土
		w	廃棄物	汚泥、シュレッダースト、一般廃棄物など
		rd	現河床堆積物	礫および砂
		dt	崖錐堆積物	礫および砂質土～粘性土
	tr	段丘堆積物	礫および砂	
古第三紀	Gd	岩脈	石英閃緑岩	
白亜紀後期	Po		ひん岩	
中 生 代	ジ ュ ラ 紀	Ksh Kss Kch	椶曲 コンプレックス	頁岩
				砂岩
				チャート

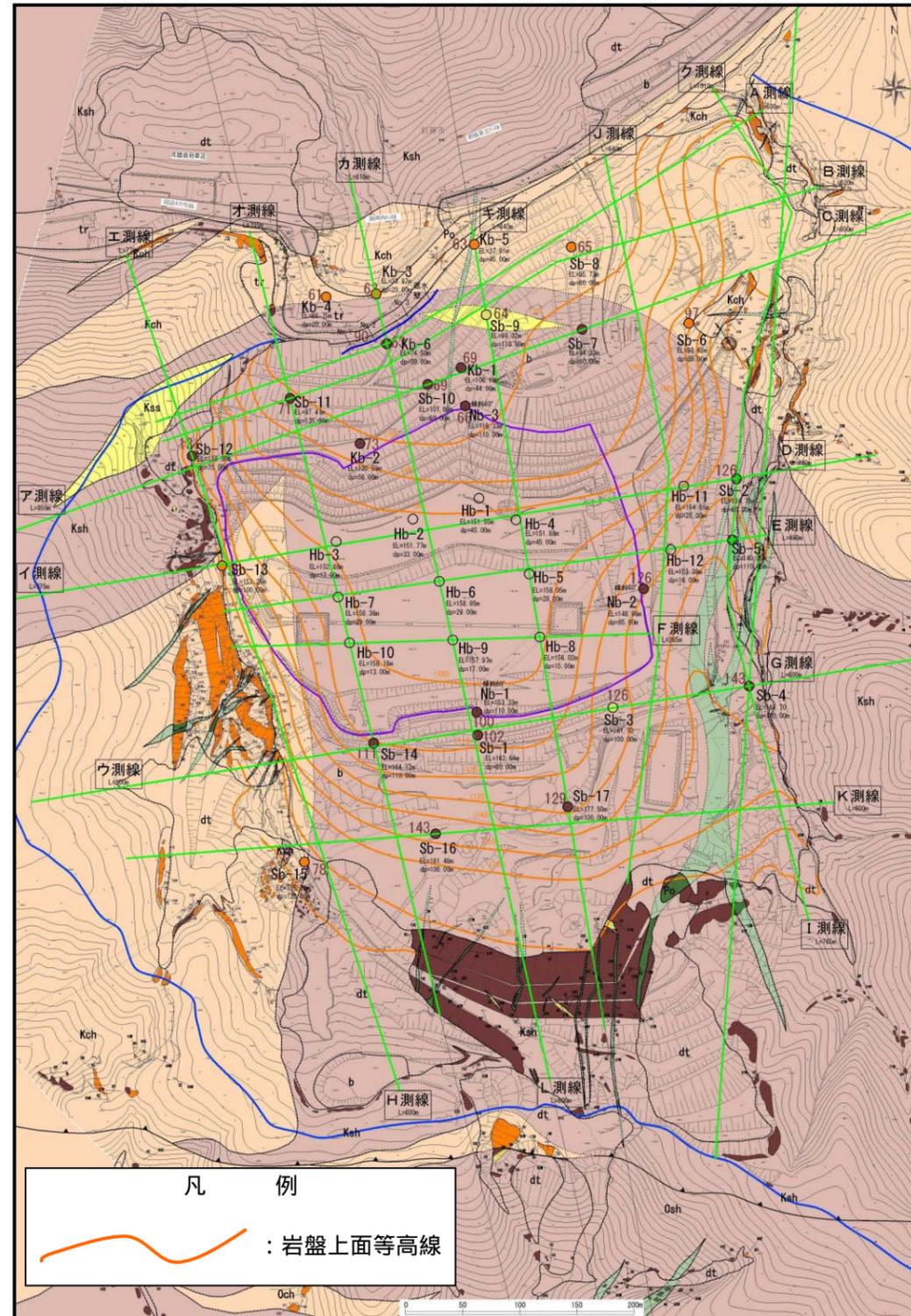


図 - 2.3.2 処分場付近の地質平面図（被覆層なし）

- 図-2.3.2 処分場付近の地質平面図（被覆層無し）
- 図-2.3.3 処分場付近の地質断面図（南北-西側・中央1・2）
- 図-2.3.4 処分場付近の地質断面図（南北-東側、東西-木ノ芽川沿い・堰堤部）
- 図-2.3.5 処分場付近の地質断面図（東西-中央・処分場南側・山側）